

イノシシによる電気柵の突破・破壊メカニズムとその対策

電気柵は電線に高電圧の電気を流すことで、イノシシが鼻で触れると、そのショックと恐怖が深く記憶され、その後の侵入行動を抑制することができる技術です。

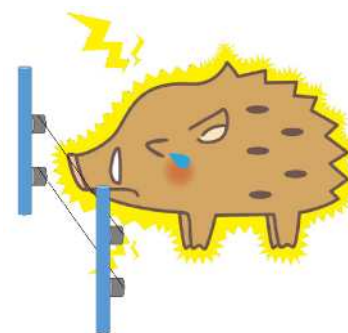
更に、フェンス設備に比べ軽量かつ迅速に設置が出来るという特長を有し、多くの場所で用いられていますが、「電気柵を設置してもイノシシの侵入は止まらない。」というご経験をお持ちの方も少なくありません。それはなぜなのでしょう？

今回はイノシシによる電気柵の突破・破壊メカニズムと、その対策としての「猪ふまず」の活用方法をご紹介します。

1. イノシシの電気柵の突破・破壊のメカニズム

① 鼻に電気ショックが伝わらないと効果を発揮できない

イノシシは警戒心が強く、不安な物をまず鼻で確認する習性があります。鼻は電気が通りやすいため電気ショックが伝わり電気柵の効果が発揮されますが、厚い皮と毛に覆われた他の部分が触れても大きなショックを感じません。



② 「安心」が刷り込まれると鼻で電線に触れなくなる

雑草や落ち枝による漏電の他、「昼間には侵入しないだろう」と電源を切っていると、その間にイノシシが侵入するだけではなく、「触っても安心」という記憶がイノシシに刷り込まれ、それ以降は鼻で電線に触れずに厚い皮と毛で覆われた背中や尻で電線を押上げて侵入するようになります。(右写真参照)



イノシシの電気柵突破

(かながわ鳥獣被害対策支援センター撮影)

2. 電気柵の効果を持続・回復させるための2つのポイント

① 電線には常に高電圧の電気を流しておく

- ・ 昼夜を問わず電源を入れておく。
(「昼間には入らないだろう」と油断しない)
- ・ 雑草、落ち枝等による漏電を極力なくす。
(電気柵専用の電圧計をうまく活用することで点検の効率化が図れます。)

② 突破された場所の「猪ふまず」による補修・補強

- ・ 右写真は、電気柵を何度も壊されている場所に「猪ふまず」を設置することで、その後の突破・破壊を抑制した状況を示しています。
- ・ 「猪ふまず」の設置による侵入抑制効果に加え、失われた警戒心が戻り、再び「鼻」で電線に触れるようになることで、電気柵の高い侵入抑制効果の回復にもつながります。



「猪ふまず」設置による電気柵の効果回復